



「世界連邦の実現に具体的な行動を」と訴える四方会長

総会では、平成16年度の活動報告と決算(監査報告含む)を審議・承認。これに続いて、今年度の活動計画や予算、役員などの議案を承認しました。役員は次のとおり(敬称略)。

会長 四方八洲男綾部市長
副会長 瀬戸孝則福島市長
桑原敏武渋谷区長、邑上守正武蔵野市長、山出保金沢市長
▽監事 高野之夫豊島区長、栗山正隆亀岡市長▽常任理事 1府1県9市▽理事 1県10市。

本協議会は、合併や財政問題で4年前に比べ加盟自治体が半減。会員自治体の確保と活動の活性化が課題となっています。総会では8月2日に世界連邦の文字が記載された決議が承認されたことを契機に、中東和平プロジェクトなど具体的な平和行動を展開し、今一度世界連邦の活動を促進させることを確認しました。

賀川豊彦を学ぶ
総会に引き続き、基調講演を開催。徳島大学工学部助教でNPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会理事の岡田健一先生を講師に招き「賀川豊彦が目指した世界平和」について学びました。

賀川豊彦は、幼少期を徳島市で過ごし、世界連邦の父と謳われた人物。世界連邦運動

協会の前身である世界連邦建設同盟の生みの親として生涯を平和活動にさげました。昭和30年、ノーベル平和賞を賀川に！という声が高まり、東久邇、片山哲の両元首相らが推薦委員会を組織し、受賞を働きかけましたが、本人が辞退したというエピソードも残っています。

この事業には本協議会から行事費として20万円を補助しています。各自自治体で平和をテーマに開催される活動やイベントなどに、この補助金をご活用ください。詳しくは自治体協議会事務局まで。

■地球平和フォーラム岡山
イスラエルとパレスチナの子どもたち10人を招き、昨年8月4日から7日間、地球平和フォーラム岡山を開催。

子どもたちは、岡山市の高校生との交流会や広島市で開かれた平和記念式典にも参加。小泉純一郎首相とも面談し、「紛争状態にある両国・地域の人々が、共に手をつなぎ、平和を培ってください」と熱い激励を受けました。

参加した学生は「日本で互いのことを知り憎しみ合う相手ではないとわかった」「仲間との出合いで希望という大切なことを教わった」などの感想を述べました。

なお、この事業には「自治体職員1人100円募金」から500万円を支援。今年度も世界平和と難民飢餓救済募金を1月に実施する予定です。ご協力をお願いします。

世界連邦宣言自治体全国協議会総会を8月20日、徳島市の「ホテルクレメント徳島」で開催。地元徳島の原秀樹市長や世界連邦運動協会の植木光教会長を来賓に迎え、合併や行財政改革の影響で減少傾向にある参画自治体の奮起を促すとともに、世界平和に貢献できる活動を積極的に展開することを確認しました。

世界連邦宣言自治体全国協議会(四方八洲男会長)は、平成17年度の総会を8月20日(土)、徳島市のホテルクレメント徳島で開催。関係自治体の職員約60人が出席しました。開会に当たり四方会長は「60年前、憲政の神様と謳われる尾崎行雄先生が、世界連邦の草案を作成。今年8月2日、半世紀以上の歳月を経て、悲願が達成された。この機会を捉え、世界連邦の実現に向けた具体的な行動を参画の自治体でも、ぜひ取り組んでいただきたい」と述べ、活動強化を訴えました。

賀川豊彦を学ぶ
総会に引き続き、基調講演を開催。徳島大学工学部助教でNPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会理事の岡田健一先生を講師に招き「賀川豊彦が目指した世界平和」について学びました。

賀川豊彦は、幼少期を徳島市で過ごし、世界連邦の父と謳われた人物。世界連邦運動

協会の前身である世界連邦建設同盟の生みの親として生涯を平和活動にさげました。昭和30年、ノーベル平和賞を賀川に！という声が高まり、東久邇、片山哲の両元首相らが推薦委員会を組織し、受賞を働きかけましたが、本人が辞退したというエピソードも残っています。

この事業には本協議会から行事費として20万円を補助しています。各自自治体で平和をテーマに開催される活動やイベントなどに、この補助金をご活用ください。詳しくは自治体協議会事務局まで。

■地球平和フォーラム岡山
イスラエルとパレスチナの子どもたち10人を招き、昨年8月4日から7日間、地球平和フォーラム岡山を開催。

子どもたちは、岡山市の高校生との交流会や広島市で開かれた平和記念式典にも参加。小泉純一郎首相とも面談し、「紛争状態にある両国・地域の人々が、共に手をつなぎ、平和を培ってください」と熱い激励を受けました。

参加した学生は「日本で互いのことを知り憎しみ合う相手ではないとわかった」「仲間との出合いで希望という大切なことを教わった」などの感想を述べました。

なお、この事業には「自治体職員1人100円募金」から500万円を支援。今年度も世界平和と難民飢餓救済募金を1月に実施する予定です。ご協力をお願いします。

世界連邦宣言
いまひとつの世界を
自治体協新聞

発行 自治体協新聞
世界連邦宣言自治体協新聞
(事務局=綾部市)
〒623-8501 綾部市若竹町8-1
TEL (0773) 42-3280
FAX (0773) 42-4406

平成17年度協総会を徳島市で開催

世界連邦宣言自治体全国協議会総会を8月20日、徳島市の「ホテルクレメント徳島」で開催。地元徳島の原秀樹市長や世界連邦運動協会の植木光教会長を来賓に迎え、合併や行財政改革の影響で減少傾向にある参画自治体の奮起を促すとともに、世界平和に貢献できる活動を積極的に展開することを確認しました。

関係自治体から60人が参加



賀川豊彦の生涯を話す岡田健一徳島大助教

■ヒロシマに学ぶ親子平和の旅

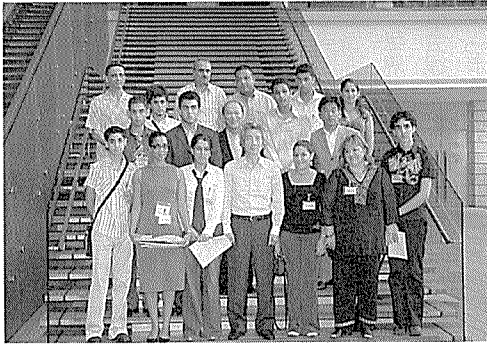
亀岡の小学生と保護者を対象に「ヒロシマに学ぶ親子平和の旅」を実施。人類史上初めての被爆地である広島市を訪問し平和学習を行うもの。昨年7月25、26の両日、市内の12組26人の親子が参加。事前学習として京都府原爆被災者の会に被爆体験談も聞きました。また、折鶴の募集や「原爆の絵展」なども開催。約1万5000羽の折鶴を広島に届けました。

中東和平プロジェクトin徳島

今年も小泉首相を訪問

2003年夏、綾部で産声を上げた「中東和平プロジェクト」。昨年の岡山市に続き、今年徳島市(実行委員長 原秀樹徳島市長)で開催。8月17日から23日までの1週間、地元の高校生との交流を展開したほか、徳島・東京を見学するなどの活動を行いました。

8月18日には首相官邸を訪問。今年には、エリ・コーヘンイスラエル大使とワリード・シアマパレスチナ代表も同席。小泉首相は「戦後60年間、日本は愚直に平和の道を歩むこ



8月18日、小泉首相を総理官邸に訪ねた一行

とを国是としてやってきた。イスラエルとパレスチナも和解の心で、平和の歴史にもっていつてほしい」と子どもたち語り掛けました。

8月21日、徳島大会を開催

8月21日、徳島県J A会館で開催された市民大会には、自治体協議会の会員のほか、徳島実行委員会や世界連邦徳島支部(坂井積会長)の呼び掛けで約300人の市民らが参加。パレスチナの代表イサー



平和と友情を確認した徳島市民大会

8月2日、悲願の国会決議なる

8月2日、衆議院本会議で、「世界連邦実現への道の探究」という表現が盛り込まれた決議が圧倒的多数の賛成で採択されました(決議文参照)。

関係者にとって「世界連邦」の4文字が記された国会決議の実現は長年の悲願。「憲政の神様」と尊敬される尾崎行雄翁が起草した「世界連

邦建設ニ関スル決議案」から60年。その夢がいに現実となりました。

今後は、世界連邦実現に向

強いリーダーシップを世界へ発揮していくことが必要です。

国連創設及びわが国の終戦・被爆六十周年に当たり更なる国際平和の構築への貢献を誓約する決議

国際平和の実現は世界人類の悲願であるにもかかわらず、地球上に戦争等による惨禍が絶えない。

戦争やテロリズム、飢餓や疾病、地球環境の破壊等による人命の喪失が続き、核兵器等の大量破壊兵器の拡散も懸念される。

このような国際社会の現実の中で、本院は国際連合が創設以来六十年来にわたり、国際平和の維持と創造のために発揮した叡智と努力に深く敬意を表する。

われわれは、ここに十年前の「歴史を教訓に平和の決意を新たにする決議」を想起し、わが国の過去の一時期の行為がアジアをはじめとする他国民に与えた多大な苦難を深く反省し、あらためてすべての犠牲者に追悼の誠を捧げるものである。

政府は、日本国憲法の掲げる恒久平和の理念のもと、唯一の被爆国として、世界のすべての人々と手を携え、核兵器等の廃絶、あらゆる戦争の回避、世界連邦実現への道の探究など、持続可能な人類共生の未来を切り開くための最大限の努力をすべきである。

右、決議する。

平成十七年八月二日

ム・サアッドさんは「中東は今も混乱の中にある。お互いの夢は軍隊やテロの恐怖に怯えない朝を迎えること。殺し合いはお互いを理解しないことから生まれる。今回の交流で、希望というお土産を持って帰ることができた」と成果

23日、13人の一行は成田空港から無事、帰国しました。けたロードマップを作成。地球市民の進むべき道を示し、強いリーダーシップを世界へ発揮していくことが必要です。

来年度総会の旅費確保を毎年、財政的な事情で総会参加自治体が減少しています。来年度の当初予算には、分担金と総会参加のための旅費(開催地未定)を確保いただき、当会の活動促進に一層のご協力をお願いします。

広がる中東プロジェクト
全国の自治体や世界連邦関係団体などから、中東和平プロジェクトの開催に関する問い合わせが増加しています。平成15年に綾部市で始まり、岡山市、徳島市と続いた当プロジェクトへの関心は、全国に広がり始めています。

を語りました。
この後、徳島大学の饗場和彦助教のコーディネートで学生たちが「相手を理解し、共通性を見出した。日本人の宗教観(神社を参拝し、仏の霊を供養、クリスマスを祝うなど)を通じて心の広さ(懐の深さ)を学んだ。今回の体験を帰国してみんなに話し、和平実現を目指したい」など、交流を通じて芽生えた心の変化を発表。子どもたちは鮮明な記憶を胸に刻み、有意義な1週間を過ごしました。

編集室から
分担金の納入期限は10月末
本年度の分担金は10月31日が納入期限となっています。分担金は、平成17年3月末の自治体人口で額を決定。都道府県や政令指定都市、町、村は定額です。8月30日付で送付しました総会資料を確認ください。お早めに振込みいただきますようお願いいたします。